

CEO'S
BOOKSHELF

CEOがすすめる一冊



稲田大輔 atama plus代表取締役



title

星の王子さま

author

サン＝テグジュペリ 河野万里子／訳

data

新潮社 518円（税込）／160ページ

profile

サン＝テグジュペリ◎1900年～1944年。名門貴族の子弟としてフランス・リヨンに生まれる。海軍兵学校の受験に失敗後、兵役で航空隊に入る。除隊後、航空会社の路線パイロットとなり、多くの冒険を経験。その後様々な形で飛びながら、1929年処女作『南方郵便機』、以降『夜間飛行』『人間の土地』『星の王子さま』等を発表、行動主義文学の作家として活躍した。第二次大戦時、偵察機の搭乗員として困難な出撃を重ね、44年コルシカ島の基地を発進したまま帰還せず。

今だから見つかる宝物、
大人が読むべき物語

子供向けの絵本——幼い頃に『星の王子さま』を読んだ方の中には、そんな感想をお持ちの方が多いかもしれません。では、今読んだらどうでしょうか。「なに、なんでもないことだよ。心で見なくちゃ、ものごとはよく見えないってことさ。かんじんなことは、目に見えないんだよ」。この、物語の終盤に登場するキツネの言葉が、昔よりも心に鋭く突き刺さる方は多いのではないのでしょうか。

僕が初めて本書を読んだのは小学4年生の時です。きっかけは、尊敬していた図工の先生が話をしてくれたこと。図工室にも本文に出てくる言葉がいくつも貼られていました。先生は、本書にとどまらず、一般的に当たり前と言われているような事柄に「なぜ?」を突きつめ、僕らにわかるような言葉に落とし込んで、本質から理解できるように話をしてくれました。そんな「人生の本質を学べる」図工の時間を、僕たちはみんな心待ちにしていたのです。

その授業を通じて、本書で度々触れられる「本当に大切なことは目に見えない」という価値観に強く影響を受けた僕は、人生の節目、節目に本書を読むことで、表面的なことにとらわれず、物事の本質を見ることができているかを考え直しています。

さて、僕の人生のテーマは、「自分の人生を生きる」幸せな人を増やすことです。経済大国でありながら幸福度が低いと言われる日本と、経済的に豊かでも「幸せだ」と言う人が多いブラジルとの違いの本質は、いったいどこにあるのか。

それを追求するべくブラジルに留学して見つけた答えのひとつは、「教育」の違いでした。例えば、ブラジルの学校では幼少期から自由度が高い上に、先生と生徒が双方向に議論を交わして考えを深めていくなど、自己表現力を育む教育が中心です。その結果、やりたいことを核に人生を組み立てる人が育っているのです。その一方、日本の教育では学力向上が何よりも重視され、やりたいことを考える前に世間が望む道を歩む人がまだ大半です。そう、幼少期の教育がその後の人生を大きく左右するのです。

atama plusは、基礎学力の習得にかかる時間を半減させ、その分増える時間で自己表現力などの「社会でいきる力」を伸ばせるよう、AIなどのテクノロジーを活用した教育プロダクトを提供しています。この事業を通じて、学びのあり方を進化させ、「自分の人生を生きる」幸せな人を増やし、これからの社会をつかっていきたいと思っています。

本書は僕を原点回帰させてくれる、大人になってからこそ読むべき物語です。読みきっかけを与えてくれた先生に感謝するとともに、多くの方にも改めて手にしてほしいと思います。今だから見つかる宝物がきっとあるはずですよ。

いなだ・だいすけ◎東京大学大学院情報理工学系研究科修了後、三井物産に入社。新規事業立ち上げ後、ブラジル駐在を経て、南米最大のEdTech企業の執行役員、三井物産国内教育事業統括を歴任。2017年4月、大学時代の仲間とともにatama plusを創業した。

内田まさみ = 構成